

# 夢洲第2期区域マスタープラン Ver.3.0(案)

---

大阪府・大阪市  
2026年 月

# はじめに

大阪府・大阪市(以下「府市」という。)では、大阪港に浮かぶ約390haの埋立地「夢洲」において、経済界とともに策定した「夢洲まちづくり構想」(平成29(2017)年8月策定)及び「夢洲まちづくり基本方針」(令和元(2019)年12月策定)に基づき、都心部にはない海に囲まれた立地条件や広大な土地を最大限に活かした国際観光拠点の形成に向けたまちづくりを進めています。

夢洲第1期区域(以下「第1期区域」という。)においては、令和5(2023)年4月に国の認定を受けた「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づく統合型リゾート(IR)(以下「IR」という。)の整備に向けた取組が進められており、夢洲第2期区域(以下「第2期区域」という。)においては、IRと連携を図りながら、大規模なエンターテインメント・レクリエーション機能を導入することとしています。また、夢洲第3期区域(以下「第3期区域」という。)においては、埋立造成を進め、第1期区域・第2期区域の取組を活かした長期滞在型のまちづくりに取り組むこととしています。あわせて、観光外周道路や鉄道(コスモスクエア駅～夢洲駅間)など、夢洲の土地利用に必要なインフラ整備も進めています。

第2期区域においては、開発面積が約50haという広大なエリアであるため、第2期区域のまちづくりの方針(マスタープラン)を示すこととし、令和6(2024)年9月から開始した「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、民間事業者からまちづくりについての提案を受け付け、これらの提案の中から、令和7(2025)年1月に優秀提案2件を決定しています。

令和7(2025)年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、2025年日本国際博覧会(以下「万博」という。)が開催されて、世界中から2,900万人を超える人々が来場し、大屋根リングに体现される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージが発信されるとともに、人々のつながり、価値創造活動、共創の記憶といった成果が生まれました。このような成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぎ発信するため、第2期区域では大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを記念公園として整備し、その他のエリアは、大阪市が実施する開発事業者募集において、静けさの森の樹木の利活用や万博を契機に創出された最先端技術やイノベーションに触れられる機能の導入などに取り組み、万博の跡地である「夢洲」において「場の記憶」を継承・展開することとしました。

本マスタープランは、優秀提案の内容を踏まえるとともに、万博レガシーの継承の在り方を整理し、これらを公民連携により取り組むまちづくりの方針として取りまとめています。

今後、本マスタープランに沿って開発事業者の募集を開始し、開発事業者を決定することとしており、第2期区域のまちづくりの効果を、臨海部をはじめとした周辺地域に波及させ、副首都の実現をめざす大阪において、成長・発展を先導する東西軸のニシの一大拠点の形成につながるよう、取り組んでまいります。

夢洲まちづくり構想 【平成29(2017)年 策定】

夢洲まちづくり基本方針【令和元(2019)年 策定】

【2022】 夢洲第2期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

【2024. 9】 夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施  
【2025. 1】 2件の優秀提案の決定

【2025. 4】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.1.0」の策定

【2025. 5～9】 「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」

【2025.10】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.2.0」の策定

【2025.12～2026. 4】 「2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

優秀提案の内容を踏まえるとともに、万博レガシーの継承の在り方を整理し、マスタープランをとりまとめ

【2026年春頃】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0（案）」の作成

パブリック・コメント

「夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0」の策定

夢洲第2期区域 開発事業者募集の開始

優秀提案者ヒアリング

## 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

### (1) 夢洲のまちづくりの経緯

- ① 夢洲のまちづくりの経緯
- ② 夢洲まちづくり構想（平成29年8月）
- ③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元年12月）

### (2) 夢洲のまちづくりの状況

#### 1) 基盤整備

- ① 夢洲アクセス鉄道    ② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）
- ③ 係留施設

#### 2) 土地利用

- ① 夢洲第1期区域 統合型リゾート（IR）
- ② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

## 2. 夢洲第2期区域まちづくりの考え方

### (1) 対象地

### (2) コンセプト

### (3) まちづくり方針

## 3. 土地利用方針

《土地利用計画（ゾーニング）》

## 4. 都市空間形成方針

- (1) まちの骨格の形成
- (2) 上質な非日常空間の形成
- (3) 水とみどりあふれる空間形成
- (4) 魅力ある景観の形成

## 5. 基盤整備計画

### (1) 道路ネットワークの形成

《観光外周道路（南側）》

《区域内道路》

### (2) 歩行者動線ネットワークの形成

《整備の方針》

### (3) 円滑な地区内等移動手段の確保

《整備の方針》

## 6. 万博レガシーの継承と発信

《夢洲での取組》

《第2期区域での取組》

### (1) ハードレガシー

- ① 記念公園の整備（大屋根リングの利活用）
- ② 静けさの森の樹木の利活用
- ③ 大阪ヘルスケアパビリオンの利活用

### (2) ソフトレガシー

- ① 取組例（i.健康医療 ii.モビリティ iii.環境 iv.スマートシティ v.夢洲コンストラクションの継承）

## 7. まちづくりDX・GXの推進

### (1) 安全・安心なまちの実現

### (2) 快適性・利便性の高いサービスの提供

### (3) 環境技術を活用した持続可能なまちの実現

## 8. エリアマネジメントの推進

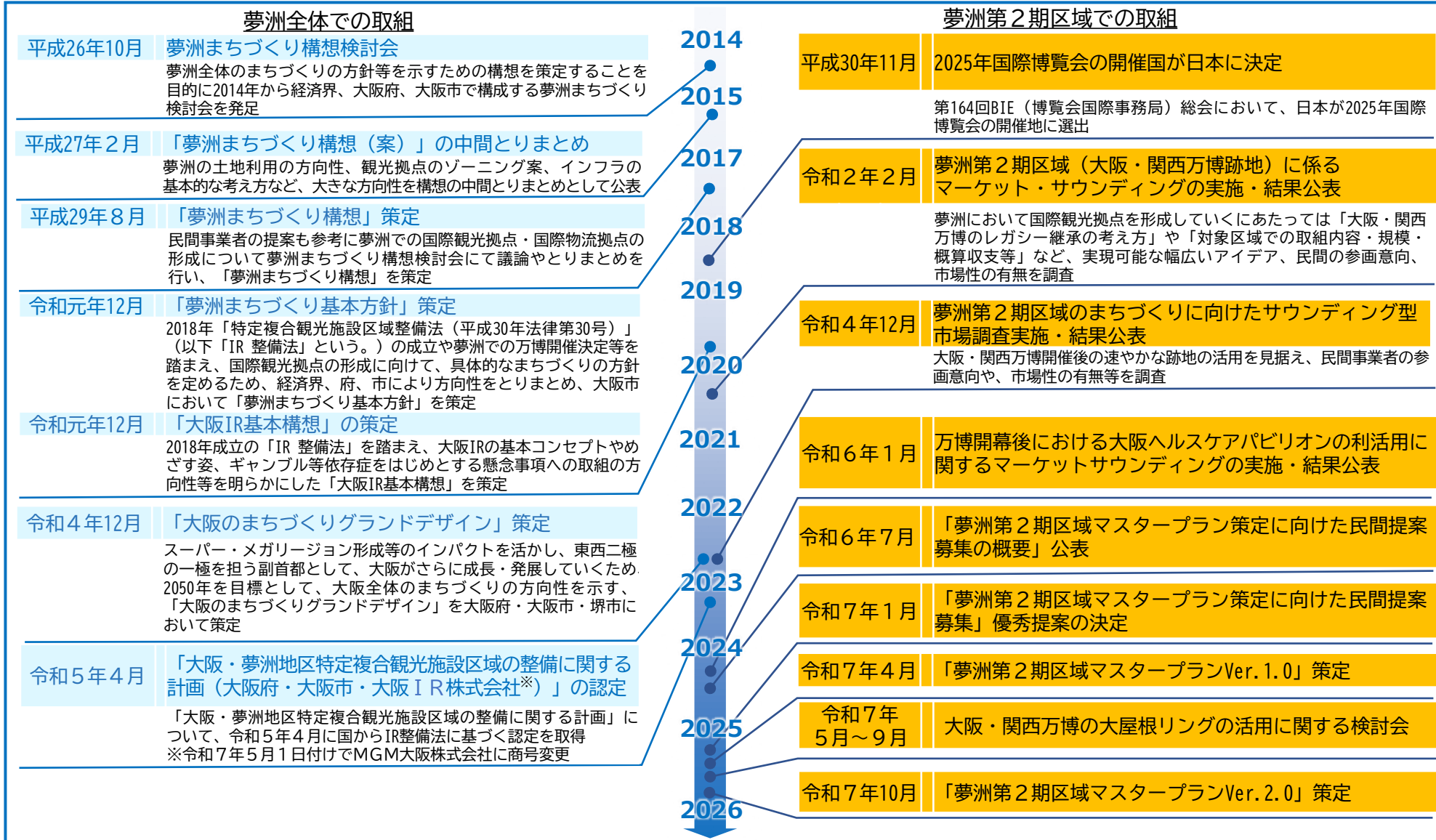
《エリアマネジメントの推進に向けた取組》

## 9. 参考資料

# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (1) 夢洲のまちづくりの経緯

### ① 夢洲のまちづくりの経緯



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (1) 夢洲のまちづくりの経緯

### ② 夢洲まちづくり構想（平成29年8月）

府市・経済界の共同により、夢洲地区での観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりや土地利用等に関する方針としてとりまとめ

#### 夢洲まちづくり構想

#### コンセプト

### Smart Resort City 夢と創造に出会える未来都市

#### 拠点形成のための都市機能



#### JAPAN ENTERTAINMENT

▶ 大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成

#### BUSINESS MODEL SHOWCASE

▶ 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

#### ACTIVE LIFE CREATION

▶ 健康で生き活きたした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

#### まちづくりの方針

**土地利用** : 世界で存在感を発揮する まちづくり

#### 環境共生

: 地球・自然環境共生とスマート技術の融合による先進的で快適な環境形成

**都市基盤** : 確かな技術に支えられたスマートなまちづくり

#### 空間デザイン

: アーティスティックなデザイン、上質で快適な空間構成

出典：夢洲まちづくり構想

# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (1) 夢洲のまちづくりの経緯

### ③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元年12月）

「IR整備法」の成立や夢洲での万博開催決定等を踏まえて、府市・経済界の共同により、国際観光拠点の形成に向けた具体的なまちづくりの方針としてとりまとめ

#### 夢洲まちづくり基本方針

##### SMART RESORT CITY の方向性

- ・夢洲では、「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取組によって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。
- ・夢洲で万博が開催されることを踏まえ、その意義や理念を活かしたまちづくりをめざす。

##### 土地利用の方針

###### 第1期区域 統合型リゾート(IR)を中心としたまちづくり

- ・夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテインメント機能の集積
- ・関西・日本が育んできた和の文化・芸能等に国内外からの来訪者が触れることができる施設やコンテンツ・サービスを導入
- ・競争力の高い大規模展示場や会議場などを整備し、都市力向上や産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化

###### 第2期区域 万博の理念を継承したまちづくり

- ・国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテインメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客
- ・第1期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取組や、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取組を展開
- ・整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備

###### 第3期区域 第1・2期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり

- ・海に隣接した立地特性を活かすとともに、第1・2期において導入された来訪者の利便性の向上に資する最先端技術等を取り入れた施設やサービスにより、生活の質(QOL)を高め、非日常空間を感じ、ゆとりある滞在時間を過ごせる上質なリゾート空間を創出



出典：夢洲まちづくり基本方針

# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 【交通アクセス】

- 都心や周辺都市へ続く高速道路ネットワークが整備されている。
- 概ね30km圏内に、関西国際空港、大阪国際空港（伊丹空港）、神戸空港の3つの空港が立地している。
- 令和7（2025）年1月にOsaka Metro中央線が夢洲まで延伸し、南側からの地下鉄によるアクセスが可能となった。また、北側からの鉄道アクセスについても、関係者とともに事業化に向けた検討を進めている。

### 【周辺施設】

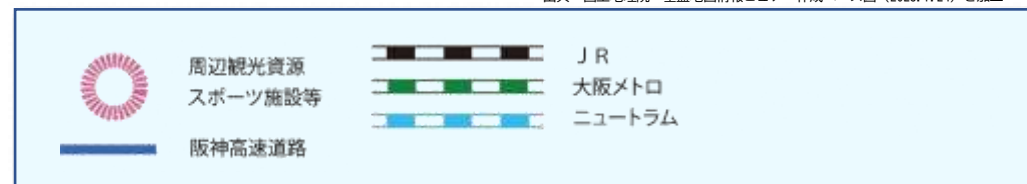
- 夢洲周辺の大阪臨海部には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®（以下「USJ」という。）や海遊館などの観光資源が立地。
- 舞洲には野球場・アリーナなどのスポーツ施設が立地。
- 大阪港（天保山客船ターミナル）にはクルーズ客船が発着し、咲洲には中国・韓国と結ぶ国際フェリー、四国・九州と結ぶ国内フェリーの定期便が就航。

### 【夢洲地区】

- 東側には、国際コンテナターミナルが立地しており、大阪・関西の物流機能の中心的役割を担う国際物流拠点を形成。
- 西側区域は、メガソーラーが立地するなど環境・新エネルギーの拠点として稼働。
- 第1期区域では、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づいたIRの整備に向けた取組が進捗中。
- 第2期区域などにおいて、令和7（2025）年4月から10月まで「万博」が開催。



出典：国土地理院 基盤地図情報ビューアー作成ベース図（2025.1.24）を加工



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 1) 基盤整備 ① 夢洲アクセス鉄道

- ・令和7(2025)年1月に南ルート (Osaka Metro中央線) が開通し、大阪市内から地下鉄でのアクセスが可能となった。
- ・北ルートの整備に向けて、有識者等による「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」において優位性が確認された検討路線について、現在、夢洲の開発による需要等を踏まえて、関係者とともに事業化に向けた検討の深度化を進めている。

#### i. 夢洲アクセス鉄道【北港テクノポート線 南ルート (Osaka Metro中央線延伸)】

- ・大阪港港湾計画等に基づく臨海部の開発に伴う交通需要に対応するために計画された、咲洲、夢洲、舞洲を経由し、在来臨海部及び都心部を結ぶ路線。
- ・咲洲～夢洲間が、令和7(2025)年1月に開通。

##### 【Osaka Metro中央線延伸部 概要】

総延長7.5km (コスモスクエア～新桜島)の内、南ルート3.2km (コスモスクエア～夢洲)

#### ii. 夢洲アクセス鉄道

- ・令和6(2024)年11月から「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を開催。
- ・国の答申路線 (中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲) と、京阪中之島線延伸 (中之島～九条) 及びJR桜島線延伸 (桜島～舞洲～夢洲) からなる検討路線について、費用対効果や収支の面で、検討路線が優位であることを確認 (令和7(2025)年8月結果公表)。

##### 「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」における検討対象路線

- 1) 答申路線 (中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲)
- 2) 検討路線
  - ・JR桜島線延伸 (桜島～舞洲～夢洲)
  - ・京阪中之島線延伸 (中之島～九条)



##### 【夢洲駅】

- 夢洲駅構造：地下2階構造 (地下1階：コンコース、地下2階：ホーム)
- コンコースの通路幅：17メートル
- 改札：16基 (2025大阪・関西万博開催時)
- ホーム延長：160メートル ○ホーム幅：10メートル (最大)



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 1) 基盤整備 ② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）

- 道路アクセスは、舞洲から夢舞大橋、咲洲から夢咲トンネルを経由する2つのルートとなっている。
- 万博に併せて、此花大橋や夢舞大橋の車線数の増加や、夢洲・舞洲において高架橋の整備等を行い、アクセス機能が強化された。

#### i. アクセス機能の強化

此花大橋や夢舞大橋の車線数を増加させ、阪神高速道路からのアクセス機能を強化。

<此花大橋>

令和4(2022)年に4車線から6車線に増加。万博閉幕後は歩道を整備。

<舞洲東交差点高架橋等>

夢舞大橋から此花大橋に向かう北行きの右折2車線を立体交差化することにより、右折車両の円滑な交通動線を確保するとともに、舞洲幹線道路を4車線から6車線に増加。

<夢舞大橋>

通行の円滑化のため、令和4(2022)年に4車線から6車線に増加。



#### ii. 物流車両と観光車両の分離

物流車両と観光車両の動線を分離するため、夢洲内（夢洲中央幹線）の2つの交差点部に高架橋を整備している。夢洲に来訪した観光車両は、この高架橋経由で、観光外周道路へアクセス可能。



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

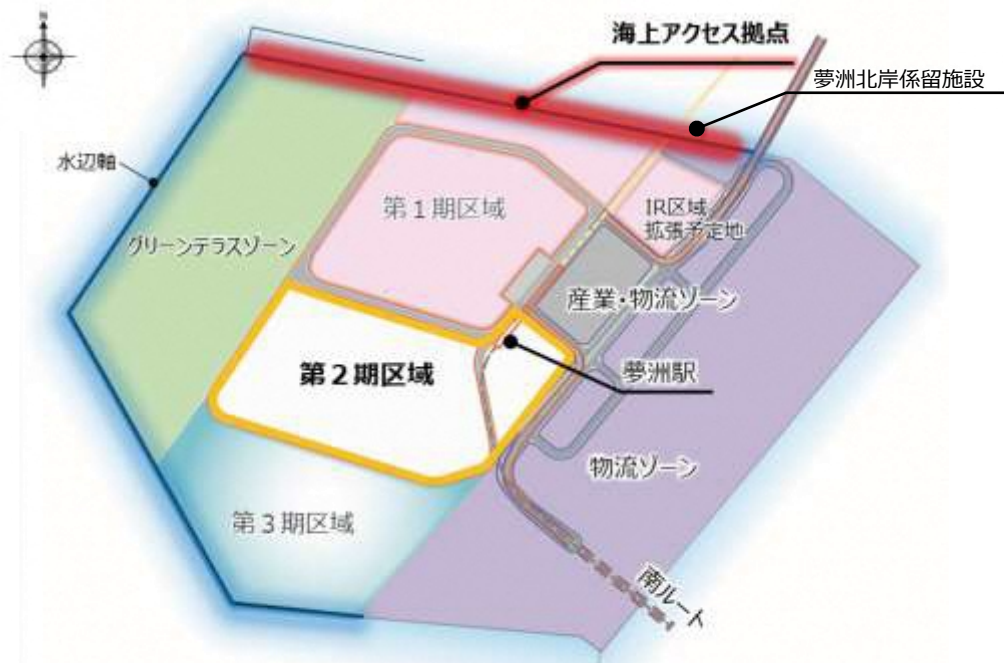
## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 1) 基盤整備 ③ 係留施設

- 周囲を海に囲まれた立地特性をふまえ、海上アクセス拠点を北側水際線に整備し、来訪者の利便性の向上及び集客力の強化を図る。
- 国際観光拠点の形成に向けて、多様なアクセス手段の確保をめざしており、係留施設を活用した水上交通の活用を検討している。

#### i. 海上アクセス拠点の強化

- 魅力ある国際観光拠点として、夢洲の立地を活かし、国内外と結ぶクルーズ客船や、近傍の集客施設と結ぶ小型客船などによる、海上アクセスの強化をめざす。
- 水上交通と連携して、大阪全体の水上交通網の拡充を図る。



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 2) 土地利用 ① 夢洲第1期区域 統合型リゾート (IR)

#### 大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画(区域整備計画)

- 令和4年(2022)年4月に認定の申請を行った区域整備計画について、IR整備法第9条第11項の規定に基づき、令和5年(2023)年4月に国土交通大臣より認定
- 日本最大級のオールインワン型のMICE施設(国際会議場施設及び展示等施設)、大阪・関西・日本の魅力を強力に発信する魅力増進施設、バスターミナル及びフェリーターミナルを含む送客施設、総客室数約2,500室を有する宿泊施設、カジノ施設等から成る統合型リゾート

#### ○コンセプト

“結びの水都”

- 大阪・関西を世界とつなぐゲートウェイ
- ここにしかない最高のエンターテイメント
- 未来を創出するイノベーション
- 大阪の発展を象徴する水

#### ○ビジョン

“WOW” Next

- 特徴的な建築やマスタープラン
- 世界トップクラスのエンターテイメント
- 最高級の宿泊施設
- 日本最大級のMICEコンプレックス

#### ○効果

IR区域への来訪者数	約2,000万人/年
初期投資額	約1兆5,130億円
経済波及効果(運営)※	約1兆1,400億円/年
雇用創出効果(運営)※	約9.3万人/年
雇用者数(IR施設)	約1.5万人

※近畿圏

#### ○ゾーニングと配置計画



#### ○事業工程

- 2025年春 IR建設工事の着手
- 2030年秋頃 IR施設の開業

※工程が最も早く進捗した場合の想定



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## (2) 夢洲のまちづくりの状況

### 2) 土地利用

### ② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

#### 開催概要

- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン
- サブテーマ Saving Lives (いのちを救う) Empowering Lives (いのちに力を与える)  
Connecting Lives (いのちをつなぐ)
- 開催期間 令和7(2025)年4月13日(日曜日)～10月13日(月曜日)
- 事業コンセプト People's Living Lab (未来社会の実験場)
- 開催実績 184日間の会期を通じて約2,902万人(AD証入場者を除くと約2,558万人)が来場



提供：2025年日本国際博覧会協会

#### テーマ事業

「いのち輝く未来社会」の姿を立体的に描き出すために、8つのテーマを設定

いのちを知る	いのちを育む	いのちを守る
生命系全体の中にある私たちのいのちの在り方を確認する。	宇宙・海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりを感じ、共に守り育てる。	危機に瀕し、人類は「分断」を経験する。「わたし」の中の「あなた」を認めるいとなみの行方に、多様ないのちが、それぞれに、護られてゆく未来を描く。
いのちをつむぐ	いのちを拡げる	いのちを高める
自然と文化、人と人とを紡ぐ「食べる」という行為の価値を考え、日本の食文化の根幹にある「いただきます」という精神を発信する。	新たな科学技術で人や生物の機能や能力を拡張し、いのちを広げる可能性を探求する。	遊びや学び、スポーツや芸術を通して、生きる喜びや楽しさを感じ、ともにいのちを高めていく共創の場を創出する。
いのちを磨く	いのちを響き合わせる	
自然と人工物、フィジカルとバーチャルの両面により、自然と調和する芸術の形を追求し、新たな未来の輝きを求める。	個性あるいのちのちを響き合わせ、「共鳴するいのち」を共に体験する中で、一人ひとりが輝くことのできる世界の模式図を描く。	

#### 未来社会のショーケース事業

万博会場を未来社会のショーケースに見立て、先端的な技術やシステムを取り入れることで、未来社会の一端を実現することをめざす。

「People's Living Lab (未来社会の実験場)」というコンセプトに基づき「Society5.0実現型会場」を創造

##### テーマ1「会場設計」

- ・チケットング、MaaS (マース)、自動運転等の各種サービスを連携させる情報通信共通基盤の導入等

##### テーマ2「環境・エネルギー」

- ・カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースとしての導入

##### テーマ3「移動・モビリティ」

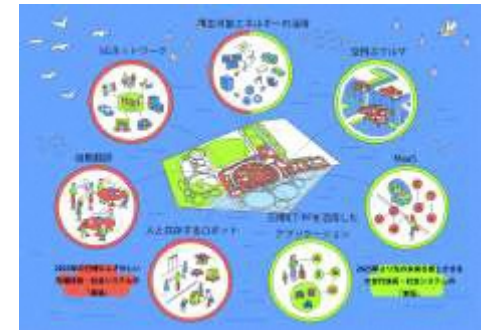
- ・公共交通や会場内のモビリティ、チケット購入等の検索・予約・決済等や、会場内の情報等アプリにより提供
- ・空飛ぶクルマによる移動体験

##### テーマ4「情報通信・データ」

- ・高速・大容量、低遅延、多数同時接続の5G等ネットワークの整備を進めるほか、技術の進展に伴う新たな技術要素の導入を目指す。

##### テーマ5「会場内エンターテインメント」

- ・リアルとバーチャルの融合を活用した、未来のエンターテインメントの実現を目指す。

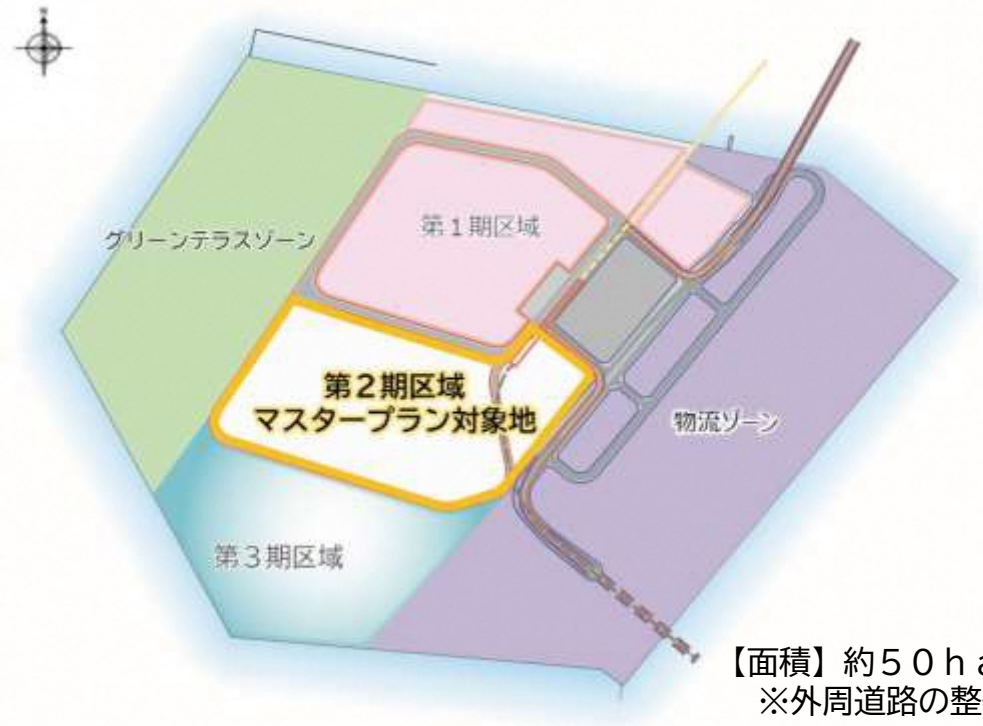


Society5.0実現型会場イメージ

提供：2025年日本国際博覧会協会

## 2. 夢洲第2期区域のまちづくりの考え方

### (1) 対象地



【面積】約50ha※  
※外周道路の整備面積を含む。

### (2) コンセプト

万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

## 2. 夢洲第2期区域のまちづくりの考え方

### (3) まちづくり方針

#### ① エンターテイメントシティの創造

- ・エンターテイメントやレクリエーション等の多様な機能を導入し、第1期区域との相乗効果を図る。さらに新産業創出や人材育成等の機能の導入に加え、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより国際観光拠点機能を強化。
- ・広大な開発区域を活かして、豊かな水・みどりと上質なにぎわい等が一体となった魅力あふれる「非日常」を感じる空間を創出するとともに、最先端技術の実装・イノベーションの実現により、来訪者が憩い・安らぎながら時間を過ごし、再び訪れたいまちを形成。

#### ② SDGsの実現に向けた未来都市の創造

- ・カーボンニュートラル、都市の自然生態系の形成等の環境対策により、SDGsの実現に向けた未来都市を創造
- ・周辺区域と連携しながら、多種多様なプロジェクトを創出するためのプラットフォームの構築や、魅力にあふれ安全安心なまちの実現に向けたエリアマネジメント組織の組成による持続的なまちの価値向上・活性化

#### ③ 最先端技術の実証・実践・実装

- ・「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博の理念を継承し、次世代技術の実証や未来社会のショーケースである万博で実施された最先端技術を実践、さらには、実装に向けた取組を実施

## 3. 土地利用方針

### 【基本的な考え方】

- ・広大な土地を活かしたスーパーブロックによる土地利用を実現し、隣接する第1期区域との連携・相乗効果による更なる「非日常」を提供する。
- ・第2期区域の一体的なまちづくりのため、ゾーン相互間での機能連携や連続した動線計画を実現する。また、隣接する区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどりや広場・歩行者空間等を配置し、一体性・連続性を確保した土地利用とする。
- ・国内外からの幅広い集客力を有する大規模なエンターテイメントやレクリエーション機能等の導入を図るとともに、大阪が強みを有する産業や研究の拠点機能や展示機能、その他国際観光拠点の形成に寄与する機能の導入を図る。
- ・万博レガシーや夢洲の立地特性を活かしたアメニティ高い空間を創出するため、水・みどりに親しめる空間を適切に配置する。

# 3. 土地利用方針

## 《土地利用計画（ゾーニング）》

### ① ゲートウェイゾーン

- ・ 夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）・期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- ・ 夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミー体験など）が可能な機能等の導入
- ・ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンや記念公園ゾーンに導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- ・ 来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備

### ② グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

#### ②-1 スーパーアンカーゾーン

- ・ 世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくとともに、多くの人に開かれ環境に配慮したエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- ・ 水・みどりに楽しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- ・ 地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーン、I R連携ゾーン、記念公園ゾーンと連携した機能の導入

#### ②-2 交流ゾーン

- ・ ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーアンカーゾーンや記念公園ゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- ・ 人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入

### ③ I R連携ゾーン

- ・ 隣接する第1期区域（I R区域）や記念公園ゾーンと連携することにより相乗効果を高める機能の導入

### ④ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

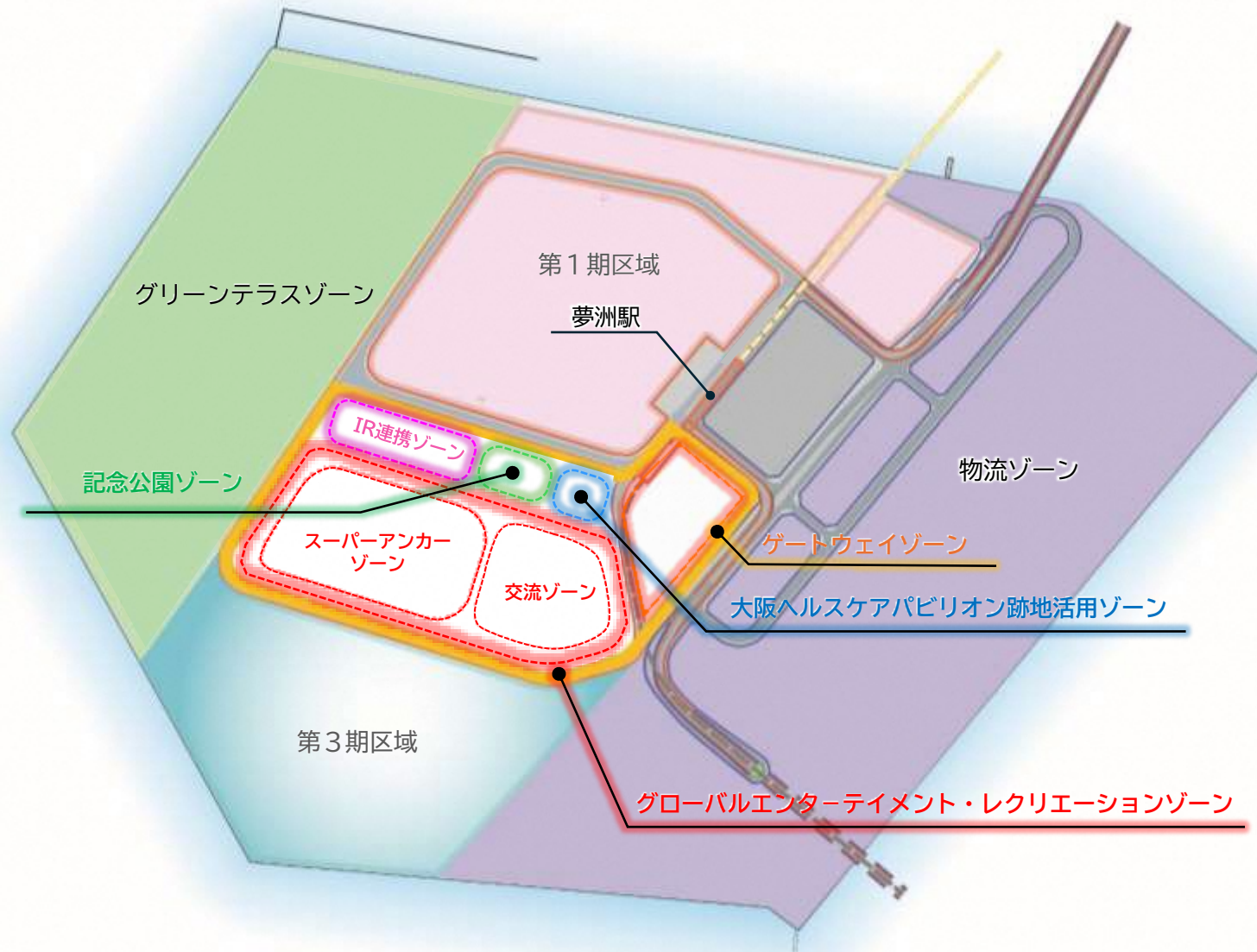
- ・ ヘルスケアパビリオンの取組を継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- ・ 記念公園ゾーンと連携し、残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入

### ⑤ 記念公園ゾーン

- ・ 万博レガシーをわかりやすく継承するため、万博会場のシンボルであった大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備
- ・ 万博で披露された最先端技術の発信、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む

### 3. 土地利用方針

《土地利用計画（ゾーニング図）》



## 4. 都市空間形成方針

### 【基本的な考え方】

- 多様な用途・高質なデザインの建築物や水・みどりあふれる空間、万博のハードレガシーなどが相互に機能的・空間的に連携することで、夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を演出する空間を創出する。
- 歩いて楽しめる賑わいのある空間や、大屋根リングの跡地付近において大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざし、区域内の回遊性・利便性の向上などに配慮するとともに、万博を契機とする新たな技術やサービス等の実証・実践の場としての活用にも配慮する。
- アイコニックな建築物や施設配置などにより、まちの骨格となる街路や記念公園だけでなく、空・海などからの視点を意識した世界に誇れる大阪のランドマークとなるシンボリックな都市景観を形成するとともに、水辺空間を活かした象徴的で魅力ある夜間景観を形成する。
- 隣接する区域の施設にも配慮し、隣接街区と調和のとれた景観や機能を形成する。

### (1) まちの骨格の形成

#### ① うるおい軸

- 駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成。
- 夢洲駅から西へ伸びるシンボルプロムナードは水・みどりあふれる空間として、第1期区域と統一感のある景観形成に努める。また、沿道建築物の壁面後退により確保する敷地内のパブリックスペースにより連続したオープンスペースを確保し、水・みどりに親しめる空間の整備などによって歩道と一体となった、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の創出を図る。

#### ② にぎわい軸

- 駅前から第2期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第3期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成。
- 記念公園ゾーンから各ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等を結び、水とみどりなどで構成された居心地の良いにぎわい軸を形成。
- 「にぎわい軸」に面する建築物の低層部には商業機能等を導入するとともに、イベントスペースとなるたまり空間の配置や低層部のデザインの工夫などにより、水・みどり空間とにぎわいが融合した個性豊かなまちなみを創出し、歩いて楽しい歩行者空間の形成を図る。



うるおい軸・にぎわい軸のイメージ

## 4. 都市空間形成方針

### (2) 上質な非日常空間の形成

- 都心部にはない広大な土地を最大限活かしたゆとりのある建築物や道路などの施設配置とともに、豊かな水・みどりを適切に配置した上質な憩い・やすらぎ空間の整備などにより、第1期区域との連携・相乗効果による、夢洲でしか体験できない非日常を演出する都市空間の形成を図る。
- 夢洲駅前には、人のにぎわい交流・憩いの場となる、水・みどりあふれるオープンスペース（広場等）を整備し隣接する建築物等と一体で、駅に降り立った人が、高揚感・期待感を感じる第2期区域の玄関口にふさわしい空間を創出する。
- 広場や歩行者空間などの公共的空間についても、非日常を演出する場として積極的な利活用を図る。

### (3) 水とみどりあふれる空間形成

- まちの骨格や建築敷地内のパブリックスペースにおいて、SDGsの達成に向けた環境共生（都市の自然生態系の創出など）などに配慮しながら、適切に水・みどりを配置し、うるおい・憩いを楽しむ空間の形成を図る。
- 敷地内の歩行者空間は、周辺施設との一体性や記念公園ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等との連続性にも配慮しながら、にぎわいと融合した水・みどり空間の形成を図る。
- 建築物の中低層部の屋上や壁面などにおいても立体的にみどりを創出し、地上部の水・みどりと一体となった空間を形成する。

### (4) 魅力ある景観の形成

- アイコニックで個性豊かなデザインの建築物やまちの骨格となる街路や記念公園だけでなく、空からの視点など様々な視点場からの見え方を意識したランドスケープ等により、第1期区域とともに、世界に誇れる大阪の新たな象徴となる都市景観を形成する。
- 歩行者空間については、適切に水・みどりに親しめる空間やポケットパーク等を配置し、建築物等のデザインと周辺のまちなみとの調和が取れた歩いて楽しい景観形成を図る。
- 大屋根リングの跡地付近においては、大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざす。
- 隣接する他の区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどり、広場・歩行者空間等を配置し、一体性を確保した調和のとれたまちなみを形成。
- 水辺空間や建物ファサード等のライトアップなど人々を魅了するフォトジェニックな光景観を創出し、国際観光拠点にふさわしい魅力的な夜間景観を形成する。
- 第1期区域と第2期区域をつなぐ高質なデザインの立体横断施設を整備するとともに、立体横断施設上などから大阪湾を望むシンボリックな眺望を確保するため、シンボルプロムナード沿道のまちなみ形成を図る。また、万博開催時に大屋根リングから眺むことができた夕陽や大空の視認性の確保に努めることとする。

## 5. 基盤整備計画

### (1) 道路ネットワークの形成

#### 【基本的な考え方】

- 夢洲の自動車交通については、安全性の向上及び交通の円滑化を図るため、高架橋の整備等により観光動線と物流動線を分離しており、第2期区域には、高架橋及び観光外周道路を経由してアクセスする。
- 適切な交通処理を実現し、快適な移動に資するため、外縁部に既設の観光外周道路とつながる道路を整備する。
- 土地利用計画、必要に応じて区域内に区画道路を整備する。
- 電線・電信類は地中化し、道路空間の安全性及び快適性を確保するとともに、国際観光拠点に相応しい良好な景観を形成する。
- 駐車場は、区域内における自動車交通処理に支障のないよう適正に配置するとともに、その出入口については、安全で快適な歩行者空間の形成を図るため、できる限り集約化する。
- 万博を契機に取り組みられた便利でスマートな次世代モビリティシステムの実証・実装のための空間を必要に応じて確保する。



#### 《観光外周道路（南側）》

- 2期区域の自動車交通需要を適切に処理する車線数を設定する。
- 公共交通の優先化や、次世代モビリティの導入について必要に応じて検討する。
- 歩行者の道路横断は、立体的な動線分離を図ることにより、歩行者の安全性を確保する。

#### 《区域内道路》

- 土地利用計画、区画道路の整備が必要な場合においては、観光外周道路（北側及び南側）と安全かつ適切な位置で接続するとともに、区域内の移動の快適性・利便性向上につながる次世代モビリティシステムの導入を見据えた空間を確保する。

## 5. 基盤整備計画

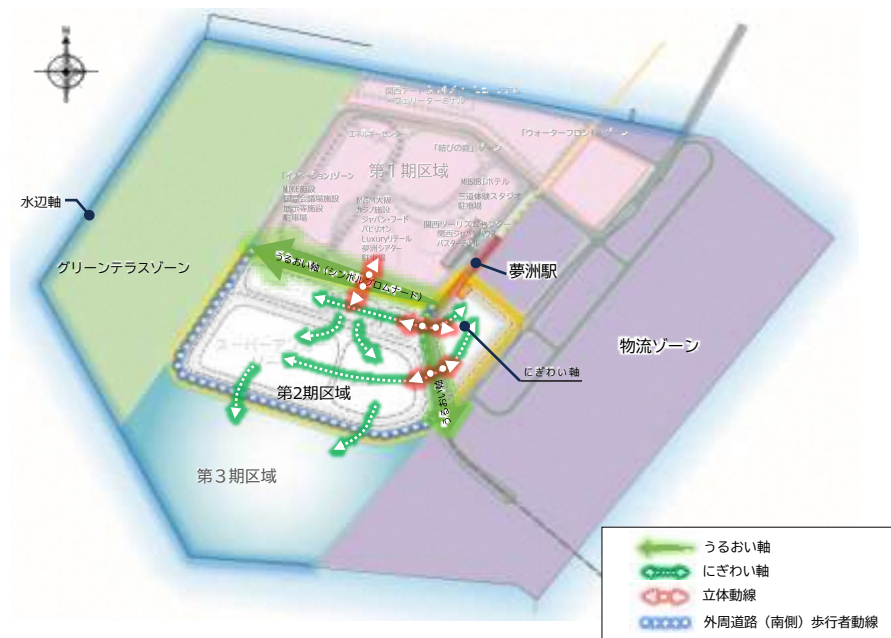
### (2) 歩行者動線ネットワークの形成

#### 【基本的な考え方】

- ・ 夢洲全体での「万博レガシーの発信拠点」の実現に向け、記念公園ゾーンと第1期区域をつなぐとともに、将来的には第3期区域まで連続する回遊性の高い歩行者動線ネットワークを形成することにより、夢洲全体の一体性を確保する。
- ・ 水・みどりやオープンスペース等を適切に配置するとともに、パーソナルモビリティの通行も見据えたゆとりある空間を形成することにより、歩行者が四季を通して安全で快適に通行することができる歩行者空間を形成する。
- ・ 敷地内の通路などの歩行者空間は、周辺施設との一体性に配慮しながら、にぎわいと水・みどりが融合した空間を創出し、来訪者が楽しく、快適に回遊できる歩行者動線ネットワークを形成する。

#### 《整備の方針》

- ・ 敷地内の歩行者空間については、記念公園ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等との連続性にも配慮し、適切に水・みどりに親しめる空間を配置するとともに、イベントや憩いの空間となるポケットパークなどもあわせて整備することで、水・みどりとにぎわいが融合した歩いて楽しめる空間を創出する。
- ・ シンボルプロムナード上に第1期区域と第2期区域をつなぐ立体横断施設を整備して、歩行者空間の連続性を確保する。この立体横断施設はうるおい軸の景観と調和し、シンボルプロムナードに相応しいものとなるよう、デザインにも配慮する。
- ・ 歩行者動線ネットワークの結節点などに水・みどりを配置し、憩いやにぎわい創出の場となるよう配慮する。



各主要動線のイメージ

## 5. 基盤整備計画

### (3) 円滑な地区内等移動手段の確保

#### 【基本的な考え方】

- ・ 第2期区域のみならず夢洲全体の回遊性を高め、安全・安心で利便性の高い地区内移動を実現する。
- ・ 夢洲内の安全・安心な移動を支える循環型交通モビリティや、回遊を促すパーソナルモビリティの導入を検討する。
- ・ “Smart Mobility EXPO（スマートモビリティ万博）※”における未来社会の実験場として、夢洲で提供された最先端技術を活用した次世代モビリティや便利でスマートな新しい移動サービスなどの実装をめざす。
- ・ 夢洲へのアクセス性の向上に向け、鉄道アクセス等について検討する。

#### 《整備の方針》

- ・ 利便性が高く、安全・安心な移動を可能とする交通システムの導入により、来訪者の回遊を促す。
- ・ 導入するモビリティについては、万博の理念を継承し、最先端技術を用いて利用者に新たな移動体験を提供するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた取組に寄与するシステムの導入をめざす。
- ・ 最先端技術を活用した多様なモビリティネットワークの結節点として円滑で快適な乗り換えを可能とする機能を駅前空間に導入する。
- ・ 来訪者の夢洲内の移動利便性の向上や交流促進により国際観光拠点としての機能強化を図るため、第1期区域と連携しながら観光外周道路を巡回するモビリティの導入について検討する。
- ・ 夢洲への鉄道アクセスに関しては、「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」で費用対効果などの観点から優位性が確認された路線について、夢洲まちづくりの動向を見極め、鉄道事業者等関係者と検討の深度化を図る。
- ・ 新技術を活用したアクセス手段の導入可能性についても検討する。

#### — ※Smart Mobility EXPO(スマートモビリティ万博) —



大阪・関西万博の未来社会ショーケース事業で設定されている6つの領域のひとつであり、カーボンニュートラルが実現された未来社会の姿を描き出すもの。  
スマートモビリティ万博で実証・実践する次世代技術・先端技術・社会システムは以下のとおり

会場アクセスバス、アクセス船／会場内・外周バス／会場内パーソナルモビリティ／ロボットエキスプレス／空飛ぶクルマ 等

## 6. 万博レガシーの継承と発信

### 【基本的な考え方】

- 大阪・関西万博では、世界中の国々から多くの人が集い、多様な文化・価値観が交流することによって新たな価値観が共有されるとともに、次世代技術・システム等の実証により様々な社会課題への解決が図られた。
- 開催地である夢洲が、万博で紹介された理念や技術、万博で生まれた様々な交流が大きく花開く場として発展することにより、万博レガシーを分かりやすく体感できることに繋げ、「いのち輝く未来社会」の実現に向けて先導的な役割を果たしていく。

### 大阪・関西万博 開催の意義

- いのち輝く未来社会へ
- SDGs達成・SDGs + beyondへの飛躍の機会
- Society5.0実現に向けた実証の機会
- 日本の飛躍の契機に

### 大阪・関西万博 理念の継承

#### ①いのち輝く未来社会へ

- 大阪・関西万博で示された“いのち輝く未来社会のデザイン”の理念を、跡地のまちづくりにおいても継承し、持続可能なまちの未来像の共創をめざす

#### ②SDGs達成・SDGs + beyondへの飛躍の機会

- 大阪・関西万博でのSDGs達成に向けた取組を継承し、2030年やさらにその先を見据えた持続可能な開発を行い、万博開催都市として、都市格の向上をめざす

#### ③Society5.0実現に向けた実証の機会

- 様々な課題解決をめざした大阪・関西万博での取組を継承し、大阪・関西万博終了後においても、引き続き行うまちづくりの中で、新たな技術やサービスが実証・実装された社会の実現をめざす

#### ④日本の飛躍の契機に

- 万博跡地という強みを最大限に発揮し、認知度の向上・地域経済の活性化をめざし、世界中から人・モノ・投資を呼び込むことができる国際観光拠点の形成をめざす

## 6. 万博レガシーの継承と発信

### 《夢洲での取組》

- MICE機能などを有する第1期区域（IR区域）と第2期区域、第3期区域（将来）が連携し、万博開催地である夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」と位置づけ、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざす。
- 大屋根リングの跡地付近においては、大屋根リングの記憶を想起させるまちづくりをめざす。
- 万博レガシー継承の観点から第2期区域のみならず、その周辺も含めた一体的なまちづくりをめざす。

#### 【第1期区域】

- 国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成

#### 【第2期区域】

- 万博の理念継承し国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

#### 【第3期区域】

- 第1・2期で創出された最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成

#### 【グリーンテラスゾーン】

- みどりあふれるオープンスペースや親水空間を形成し、中央部で展開されるエンターテインメント機能等と連携する機能を導入するなど、中央部と一体感のある国際観光拠点を形成



## 6. 万博レガシーの継承と発信

### 《第2期区域での取組》

- ・万博の成果である「つながり・交流の拡大、深化」、「新たな価値観への気づき・共有」、「新たな取り組みとして生み出した技術・システムの実証」などを継承し、環境に配慮しながら多くの人に開かれた、音楽、アートやスポーツなどを題材とした取組、国内外の若者の夢や心身を育む取組、数多くの先進的技術に触れる取組を展開し、これらを日本・世界へ発信する。
- ・記念公園ゾーンでは、これらの取組みを展開する「場」として、府市が中心となって、記念公園の整備・大屋根リングの一部残置・記念館の整備を行うこととし、最先端技術の発信、地方創生や産業振興に取り組む。
- ・あわせて、民間開発エリアでは、「静けさの森」の理念の継承に取り組むとともに、非日常空間の創出や、万博で実証された「未来社会の実現」に資する取組を条件とする公募を実施する。
- ・大阪ヘルスケアパピリオン跡地活用ゾーンにおいて、開発事業者が、万博で取り組んだ先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信に取り組む。

#### 記念公園ゾーン(約2.9ha)

##### 【記念公園】

- みどりに親しめる空間を整備し、交流や出会いを促す「場」を創出

##### 【大屋根リング】

- 万博レガシーのシンボルとして、約200mを残置し展望台として改修

##### 【記念館】

- 万博の記憶や万博で披露された最先端技術の情報発信や、ビジネスや文化等の交流の場の創出

#### 民間開発エリア(約42ha)

- 大阪が強みを有する産業や研究機関の成果などのショーケース機能の導入
- 最先端技術の実践・実証
- 都市データ等を活用したプロジェクトを創出するスマートプラットフォームの構築
- 静けさの森の樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備

#### ヘルスケア跡地活用ゾーン(約1.5ha)

- 先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能の導入と、これらに係る情報発信

#### <第2期区域>



# 6. 万博レガシーの継承と発信

## (1) ハードレガシー

### ① 記念公園の整備(大屋根リングの利活用)

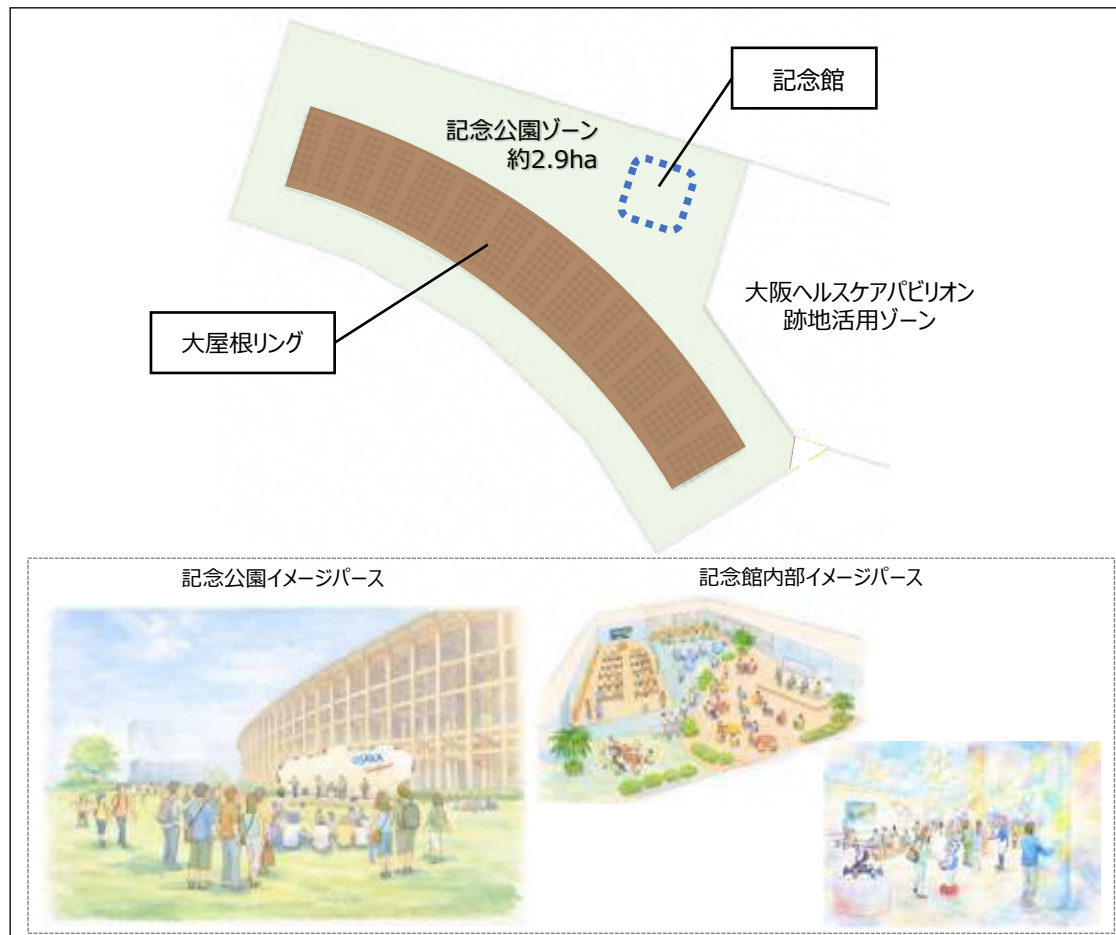
#### ○ 整備の方針

- 万博では、大阪・関西をはじめ日本中、世界中からの来場者とともに万博を共創しつつ、大屋根リングに体现される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージを世界に発信した。
- こうした万博の記憶を後世につなげるため、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを記念公園として整備するとともに、万博で披露された最先端技術の発信や、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む。

#### ○ 整備の概要

記念公園	<ul style="list-style-type: none"><li>大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備</li><li>種別：緑地等</li><li>面積：約2.9ha</li></ul>
大屋根リング	<ul style="list-style-type: none"><li>準用工作物として人が登れる形で利活用</li><li>最先端技術を活用し、当時の万博を体験</li><li>延長：約200m</li></ul>
記念館	<ul style="list-style-type: none"><li>万博の記憶や、万博で披露された最先端技術の情報発信</li><li>ビジネスや文化等の交流の場の創出</li></ul>

記念公園の整備（大屋根リングの利活用）イメージ



#### 【大屋根リングの概要】

- 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築
- 会期中は、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用

- ・建物用途 歩廊（仮設建築物）
- ・建築面積 約60,000㎡（水平投影面積）
- ・長さ 約2,200m（内径：約615m、外径：約675m）
- ・幅 約30m・高さ12m（外側20m）

提供：2025年日本国際博覧会協会



# 6. 万博レガシーの継承と発信

## (1) ハードレガシー

### ② 静けさの森の樹木の利活用

- ・「静けさの森」は、樹木や草花などの「いのち」を迎え入れ、万博のテーマを体現する空間である。
- ・2024年9月より実施した「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、2025年1月に決定した優秀提案では、概ね区域を変更せず樹木を再配置する提案、区域を夢洲駅南側に移設し樹木を再配置する提案があった。
- ・これらを踏まえ、今後の開発事業者募集において、開発事業者に求める計画提案のなかで、当該樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備の提案を求めることとし、開発事業者が利活用できるように、2025年日本国際博覧会協会が「静けさの森」の樹木を残置する。
- ・なお、「静けさの森」の樹木を利活用した緑地等の整備にあたっては、まちづくりの中で周辺施設との連続性や一体性等を確保するとともに、「静けさの森」の理念を踏まえたものとするなど万博レガシーの継承に留意する。

開発事業者に提案を求める  
樹木の範囲（赤線内）



#### 【静けさの森の概要】

- 会場の喧騒の中であってひとときわ静かで落ち着ける場所として整備
- 万博記念公園をはじめ大阪府内の公園等から将来間伐予定の樹木を移植するなどし、森を構成
  - ・広さ 約2.3ha
  - ・樹木本数 約1,500本（アラカシ、イロハモミジ、エゴノキ、クヌギ、コナラ、ヤブツバキなど）
  - ・水景施設 池、水盤



提供：2025年日本国際博覧会協会

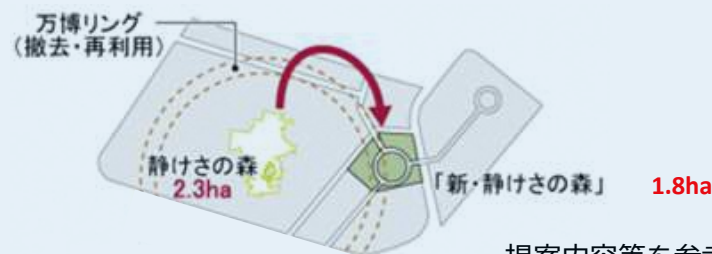
#### 【優秀提案の概要】

○優秀提案1：概ね区域を変更せず樹木を再配置



提案内容等を参考に記載

○優秀提案2：区域を移転し、樹木を移設



提案内容等を参考に記載

## 6. 万博レガシーの継承と発信

### (1) ハードレガシー

#### ③ 大阪ヘルスケアパビリオンの利活用

- 万博において、府市は産・学・官・民の力を結集して、「REBORN」をテーマとする大阪ヘルスケアパビリオンを出展し、「いのち」や「健康」の観点から未来社会の新たな価値創造や、大阪の活力・魅力を世界へ発信した。
- こうした取組を、ハード・ソフト両面でレガシーとして後世に継承するため、大阪ヘルスケアパビリオンの一部を残置または敷地内で移築<sup>※1</sup>し、民間事業者所有のもと、大阪の強みを活かして展開する「先端医療」・「国際医療」・「ライフサイエンス」に係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信を行う。
- また、こうした取組は、建物の耐用年数等を踏まえてレガシーとしての継続性を確保するとともに、にぎわい創出の観点から、ホテル、オフィス、商業施設などの施設を隣接して設け、同施設と連携させながら一体的に運営することを基本とする。
- 上記の方針に基づき、建物の所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオンと連携し、事業者募集を実施する<sup>※2</sup>。

※1 既存建物を解体し、敷地内で復元すること

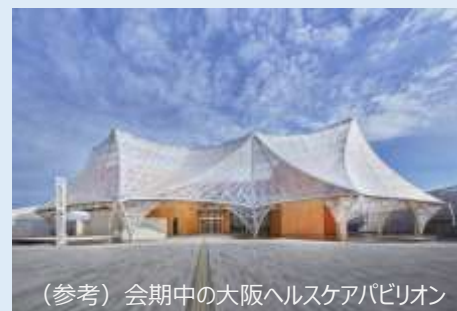
※2 2026年1月に、先行して開発事業者の募集を開始している

#### 【利活用部分の配置イメージ】

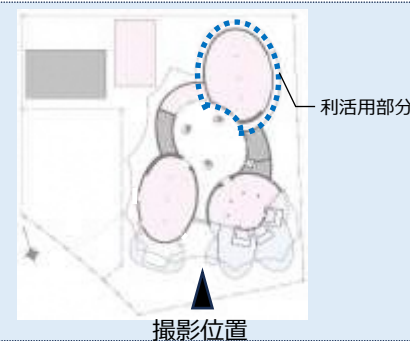


#### 【利活用部分の概要】

- 鉄骨造2階建
- 延べ面積 約2,000㎡(ヘルスケアパビリオンの一部)



(参考) 会期中の大阪ヘルスケアパビリオン



## 6. 万博レガシーの継承と発信

### (2) ソフトレガシー

- 大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケース機能の導入や、最先端技術の実践・実証の取組、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用したプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築などの、万博理念を継承する取組を展開する。
- 「大阪スーパーシティ全体計画」における「夢洲コンストラクション」等のプロジェクトで実現した最先端技術やサービス等を、第2期区域の開発において展開する。

#### ① 取組例

##### i. 健康医療

- PHRデータの活用による健康プログラムの提案
- 体組成／健康状態自動測定

##### ii. モビリティ

- 空飛ぶクルマの商用運航の実現可能性及び空飛ぶクルマの離着陸場の整備の検討
- 自動運転バス等の導入とともにモビリティ専用レーンの検討
- PRTシステムの導入
- MaaSの導入（交通、観光、宿泊など、より利便性の高いサービスの導入に向けた検討）
- EV・FCバスの導入やバス対応の充電設備、水素ステーションの整備といったゼロエミッションモビリティの推進

##### iii. 環境

- 太陽光発電（ペロブスカイト太陽電池等）、蓄電池、帯水層蓄熱、e-メタン活用、バイオガス発電等の再生可能エネルギーの利用
- 自立分散型電源
- フュージョンエネルギー、水素
- 雨水・中水利用

##### iv. スマートシティ

- ホテル客室入退室やモビリティ予約者認証等の生体認証技術の導入
- デジタルツインの構築と広域データを活用した、交通流の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。
- 高速大容量、低遅延、低消費電力の通信環境の整備・導入

##### v. 夢洲コンストラクションの継承

- 建設工事現場内外の移動円滑化（データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導 等）
- 建設工事・資材運搬円滑化（データ及びセンシングによる局所的な気象予測 等）
- 建設作業員の安全・健康管理円滑化（バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理 等）

## 7. まちづくりDX・GXの推進

### 【基本的な考え方】

- ・IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、安全・安心なまちの実現や都市機能の効率化、最適化をめざすとともに、環境技術の活用やグリーンインフラの整備等により、持続可能な社会の実現をけん引するまちづくりを推進する。

### (1) 安全・安心なまちの実現

- ・災害時や危機事象発生時においても、速やかな災害対応による被害の軽減と迅速な復旧活動による経済活動の早期回復をめざし、デジタル技術やデータの活用、自立分散型電源の設置等により、災害レジリエンスの向上に努める。
- ・第1期区域の開発事業者や行政等との連携・連絡体制を構築し、すべての来訪者及び夢洲で働く就業者の安全・安心の確保に取り組む。

### (2) 快適性・利便性の高いサービスの提供

- ・「大阪スマートシティ戦略」の推進や「大阪スーパーシティ全体計画」の実現に向け、万博で活用した最先端技術、サービスの展開・高度化に取り組む。
- ・開発自由度の高いグリーンフィールドという特性を活かし、回遊性に配慮した施設配置とするとともに、各種センサー類の設置等による区内で得られる各種データの蓄積・活用を行い、最先端技術の提供などによる交通円滑化に資するサービス活用を推進する。
- ・デジタルツインの構築と広域データの活用などによる、交通流動の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。

### (3) 環境技術を活用した持続可能なまちの実現

- ・温室効果ガスの排出削減等によるカーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向け、万博会場における新技術の実証・活用の取組を継承し、実装につなげる。
- ・環境問題を含む社会問題の解決を都市力・企業価値の向上につなげるとともに、持続可能な社会の実現に向け、グリーンインフラに関する取組を推進する。  
(グリーンインフラの具体的導入例：緑地・緑道・水辺空間等の一体整備、コミュニティ広場整備、屋上緑化、雨水貯留機能を有する建築計画など)

## 8. エリアマネジメントの推進

### 【基本的な考え方】

- 第2期区域において、開発事業者が主体となり、「まちの活性化」、「賑わい創出」、「安全安心」などの取組により、まちを「育てる」仕組みを構築し、魅力的かつ統一感のあるまちづくりを継続的に推進する。

### 《エリアマネジメントの推進に向けた取組》

- 第2期区域において、長期にわたってエリア全体の価値や魅力向上に取り組み、まちを一体的に管理運営する組織（エリアマネジメント団体）を開発事業者が主体で組成する。
- エリアマネジメント団体においては、「まちの活性化」「にぎわい創出」「安全・安心」の取組を展開するとともに、スマートシティに関する取組を支えるデジタル技術の導入、万博レガシーを継承する実証・実装の先進的取組などを推進する。
- 第1期区域や、第3期区域（将来）の事業者と連携しながら、夢洲全体のエリアマネジメントに取り組む。

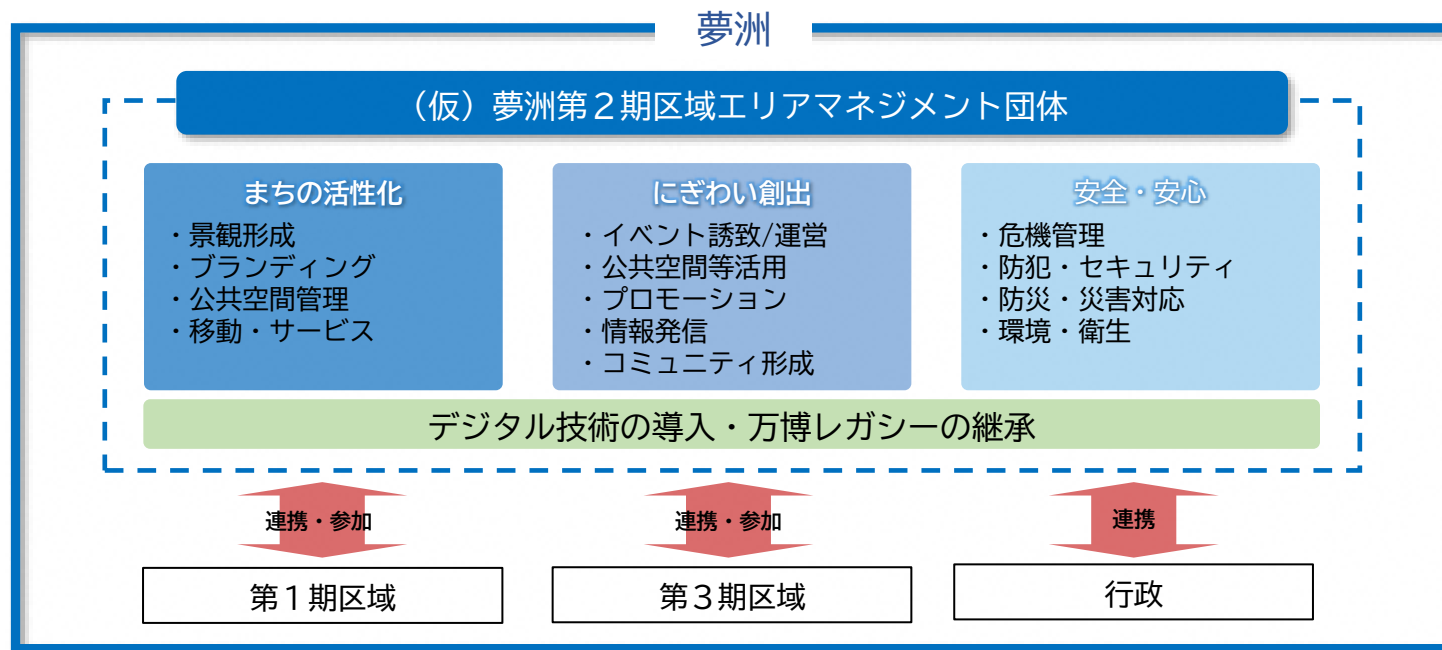


図 夢洲におけるエリアマネジメント組成のイメージ